



町内一斉防災訓練を実施

8月27日(日)、各集落において午前6時のサイレンにあわせ、町消防団や自主防災組織と連携し、避難誘導訓練やハザードマップの確認など、集落ごとに特色ある防災訓練が行なわれました。

引き続き、午前9時からは赤倉・月楯・瀬見の三地区において、町消防団による火災防ぎょ訓練が行なわれました。三地区の現場では、消防団員の皆さんが、これまで培ったポンプ操作技術や迅速な伝達など、本番さながらの訓練を行ないました。

短期滞在プロジェクトを最上町で(文教大学)

農業における労働不足を解消するとともに、町の良さを知ってもらうことを目的とした「最上町短期滞在プロジェクト」。これは、都市部の余剰の労働力を活用し、ハードルの高い完全移住から一定の期間滞在する「プチ移住」を推進しようとする取り組みです。今回は、文教大学経済学部の学生10名を迎え、町内の農家3軒とJAでの就労を5日間のプログラムで実施しました。また、最上町の魅力を知ってもらうため、山刀伐峠のトレッキングを行い、その光景の俳句を詠むなど、最上町を満喫してもらいました。



最上町「地域の宝」に新たに1件登録！

最上町「地域の宝」登録事業は、これまで地域に慣れ親しまれ、受け継がれてきた有形・無形の文化資源や自然を将来にわたって継承していくとともに、地域資源を再発見し保存・活用することで、地域における文化の振興及び町民の伝統的な文化に対する意識の向上を図ることを目的としています。

今回新たに1件が最上町「地域の宝」に登録されましたので、ご紹介します。

登録番号第7号

瀬見温泉伝統芸能保存会太鼓部会 ◆無形 芸能

瀬見温泉発見の由来とされる義経・弁慶伝説を伝統芸能として活用し、平成2年に有志12名で「瀬見温泉伝統芸能保存会太鼓部会」を発足。現在、会員数は43名。地域に根差した太鼓部会として地元の祭りをはじめ、最上地域のイベント参加や老人ホームへの慰問、教育旅行で町外から訪れた生徒への指導などを通じて、交流の輪を広げながら、子どもたちとのふれあいを大切に、次世代への伝統文化の継承と地域活力の創出を目的に活動を行なっています。



わくわくキッズルーム 264名が参加



社会福祉協議会のはっぴープロジェクト事業の助成金を活用し、今年は交流会館と中央公民館を会場に7月31日(月)から計6回開催し、町内小学生延べ264名がレクリエーションゲームやミニキッズ祭り、スライム制作を楽しみました。こども食堂では、大場満郎さん、(株)三和食品、社会福祉協議会より提供いただいた食材を、富沢地区婦人会、松葉会、満沢のたらふく工房の皆さんから調理していただきました。たくさんの地域の方、団体の協力を得て開催することができました。ご協力ありがとうございました。



おくのほそ道赤倉ゆけむり館入浴者数 30万人突破

オープンから6年目を迎えた、「おくのほそ道」赤倉ゆけむり館では、8月16日(水)に入浴者数が30万人を突破しました。記念すべき30万人目にお越しいただいたのは、宮城県から観光でこられた大槻さんご夫妻です。

お二方には、一般社団法人赤倉温泉振興会から記念品が贈呈されました。今後も町内外のお客様から愛される施設を目指し運営していきます。皆様のお越しをお待ちしております。



写真：大槻裕二さん ご夫妻(宮城県)



大筆体験キャラバンに大勢の参加者

8月19日(土)、中央公民館みどりホールにおいて、大筆体験キャラバン「BLUE SHEET」In 最上町が開催されました。太田司さん(向町)が主催するこのイベントは、東京都板橋区在住の書道家・原田貴世さん率いる「BLUE SHEET」との交流から始まり、今年で6周年を迎えました。

今回は、メンバー5名が来町し参加者50名に対して大筆を使ったダイナミックな書道を体験してもらいました。出来上がった作品は、8月21日から25日まで中央公民館に展示されました。

農業委員による 農地パトロール・作況調査

8月25日(金)に、農業委員及び農地利用最適化推進委員合計16名による、農地パトロールと農作物の作況調査が行なわれました。

町内における水稻や園芸作物等の生育状況の把握を中心に、耕作されていない農地の有無も確認しながら巡回しました。今後も農地の適正利用の把握に努め、健全な維持がなされていくよう活動を強化して参ります。

